

粘り切れずに失点…

今季4敗目喫す

敗戦に肩を落とす選手たち

(撮影：柴崎拓見)

駒澤大学0-2筑波大学

5月28日 11:30 味の素フィールド西が丘

駒大 0 (0-1) 2 筑波大 (0-1)

得点者 (7/スト)

[筑]22分長澤 (会津)
[筑]89分北川 [PK]

KOMAZAWA

GK②角井栄太郎(2)
DF③須藤皓生(2)
DF④宮坂 瑠(4)
DF⑤星キョウワエン(1)
DF②熱川徳政(3)
MF⑤東 史弥(4)
(65分)④小川礼太(1)
MF⑩吉岡雅和(4)
MF⑦大村英哉(3)
(82分)⑩金 大生(4)
MF⑧桑原 智(3)
MF⑧中原 輝(2)
FW⑨小口大司(3)
(65分)⑨大谷真史(4)

S U B

GK②輪島稜(3)
DF③初芝政弘(3)
DF⑤伊勢 涉(2)
MF⑥大場淳矢(2)

MANAGER

秋田浩一

TSUKUBA

GK①森本泰介(3)
DF②浅岡大貴(3)
DF③小笠原佳祐(2)
DF⑤鈴木大誠(2)
DF④会津雄生(2)
MF⑧吉田直矢(4)
MF⑤西澤健太(2)
MF⑥戸嶋祥郎(3)
(77分)②松村 遼(3)
MF②長澤皓祐(2)
(69分)⑧鈴木徳真(2)
FW⑩北川柊斗(2)
(89分)③山川哲史(1)
FW⑩中野誠也(3)

S U B

GK③阿部航斗(1)
DF⑥加藤潤(1)
MF②三苫 薫(1)
FW④越智滋之(3)

MANAGER

小井土 正亮

[シュート]5:6 [GK]7:16 [CK] 8:5 [直接FK]9:19
[間接FK]0:2 [主審]鈴木 溪 [観衆]1931人

警告(C)/退場(S)

[駒]30分桑原 智(c)
[駒]89分小川礼太(c)
※データの左側が駒大

敗戦で浮き彫りになった課題

集中応援ということもあり、たくさんの観客が見守るなか行われた筑波大との一戦は、開始直後から攻守に展開の早いものとなる。前線からの激しいプレスで相手陣内高い位置でボールを奪った中原は、キーパーの位置を見てそのままシュートを放つ。およそ40メートル以上も遠い位置から蹴られたボールは惜しくも相手ゴールのサイドネットに外れた。このあいさつ代わりにシュートで相手のエンジンをかけてしまったのか、次第に相手にボールを回され守備に徹する時間が増えていく。すると前半23分、左サイドを崩され、ペナルティエリア付近中央にいた選手へとパスが渡り、最後は落ち着いてシュートを決められ先制を許してしまう。前半のうちに追いつきたい駒大は吉岡を中心にゴールを狙う。32分、左サイドの中原がクロスを上げ、ボックス内で受けた吉岡がゴールへとドリブルで切り込み、シュート。その3分後にはペナルティエリア付近から強烈なシュートを放つが、いずれも相手ゴールには至らず、前半が終了した。後半、最初に好機を迎えたのは

駒大だった。「ハーフタイムで監督からプレスに行ってみると指示があった」と、バックパスを受けた相手キーパーに向かって小口が激しくプレス。これが相手のミスを生じ、こぼれ球を拾った吉岡がフリーで無人のゴールに流し込み同点に追いついたかと思われたが、オフサイドの判定でノーゴールとなった。それでも気落ちすることなく果敢に相手ゴールを狙っていくが、なかなかゴールを奪えずにいると、試合終了間際に相手にPKを献上し、これを決められ2点差とされる。試合はこのまま同点に追いつくことができず、終了した。

「もう少し走ってほしかった」と秋田監督。これまでは試合を通して相手より運動量で上回ることで後半に攻勢を強めていく“後半に強い駒大”だったが、今回の試合ではそのサッカーを見ることができなかった。それに加え、この試合で見えた課題は最後の精度だ。クロスやシュートの部分で精彩を欠き、得点に結びつけることができなかった。これで今季4敗目を喫した駒大だが、それでも自分たちのサッカーを信じ、最後まで「あきらめないでやる続けることが大事」だ。(織原祥平)